

経済学史 (2019年度前期)

第4講: リカードの巨視的分配論

担当者: 佐々木 啓明*

*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

——デイヴィッド・リカード——

デイヴィッド・リカード (David Ricardo, 1772–1823), 古典派経済学の代表的な理論家.

● 穀物法論争

大陸からの穀物輸入関税の引き上げを主張する側 (マルサス) と, 関税を引き下げて貿易自由化を主張する側 (リカード) との論争.

マルサス: (1) 食糧生産を外国に依存するのは危険. (2) 工業に偏ると, 過剰生産物が生み出され, その過剰生産物を輸出に吸収させられるかどうかは不確実.

リカード: (1) 食糧生産を外国に依存しても安全. 輸出停止は外国の損害になるから, 輸出停止は起こらない. (2) 「比較優位の原理」にのっとった貿易は双方の利益になる (『経済学および課税の原理』 1817年).

- 機械論 (1821年の第3版・第31章に加えられる)

機械の過度な導入は失業を生み出す可能性がある

ラッダイト運動 (Luddite movement): 機械破壊運動

短期的には雇用減少, 長期的には利潤からの貯蓄による資本蓄積の結果として雇用回復となるだろう.

——巨視的分配論——

●生存費賃金

労働の自然価格は、労働者が生存しかつその数が一定となる水準。

→ 市場賃金が自然賃金を上回れば、人口が増大し、市場賃金が自然賃金を下回れば、人口が減少する。

●マルサスの人口論

「人間は本能に従ってねずみ算的に子供を生む性向を持つ。だから人口は幾何級数的に増加するが、食料生産は土地資源に制約されるため算術級数的にしか増加しない。したがって、いかに食料生産に余裕があってもやがて1人当たりの食料供給は生存に必要な最低限を割り込むようになる。そこで生ずる飢えや病や戦いなどで人口は減少し、生き残りぎりの生活水準で人口は静止する」

- 差額地代

地代は豊かな土地における高い労働生産性と貧しい土地における低い労働生産性との差額によって説明される。